

助け出された者は

2021年7月18日

詩篇 22篇

序：受難週に取り次いだ 22・1、6～21

ダビデの苦難の経験を遥かに越えた、メシヤ預言 6～8節、12～18節

今日はその他（前後）の部分

暗闇 ⇒ 光 夜 ⇒ 暁

神の救出は先祖、自分、子孫
過去、現在、未来
個人、民族、全世界

I. 神は私をお見捨てになった？ 1～2節

とてつもない苦痛、悩み、試練に会う時
理不尽、非情な扱い、
これといって何の罪が原因かわからない
助けを求めても得られず、同情する者もない

神に叫び、問い、答えを求めても、沈黙のみ
神は黙っておられるが、私は昼夜を問わず、主を呼ぶのを止めない
見捨てられたのでは？と思いつつ、「わが神、わが神」と呼ぶ
「 なら、もはやわが神ではないはずでは？

それでも、主はわが神

II. 正気を取り戻す 3～5節

(1)神を思い起こす

聖なる方 ↔ 私は虫けら

御座についておられる方 = 主権者、統治者

イスラエルの賛美 = イスラエルの誇り、栄光、ほめ歌

(2)神と先祖を振り返る

神

信頼↑ ↓救出

先祖

今がいかに悲惨であっても、過去の神の憐れみと力ある御業は事実

III. キリストの苦難・十字架上の死・復活 6～21節

暁の雌鹿 = キリスト
押し迫る死 ⇒ 急いで早く、と叫ぶ

長い夜が明けて朝となる 死は復活の前提、勝利の序曲
雌鹿はすばやく、軽快に飛び跳ねる
多くの子を産む イザヤ 53・10～12 (復活の結果)

IV. 生き返った者は 21b～27節

- (1) 祈りを聞いてくださった神に感謝する
- (2) 主の御名を信仰の仲間に語り告げる
- (3) 会衆の中で主を賛美する (私の賛美は神からのもの)

あくまでも、神中心、神第一 (自分にスポットを当てない)

- (4) 主を畏れる人々への勧め
主を賛美せよ、主をあがめよ、主の前におののけ
- (5) 誓いを果たす (賛美 ⇒ 誓い)
貧しい者のためのとりなし (苦しみ、飢えから解放、満ち足りるよう)
御顔を向けて、実現してくださった主を賛美するよう
一時的ではなく、いつまでも
- (6) 遠く離れている国々のすべてのものが、主に帰り礼拝するよう祈る

V. 将来への展望 28～31節

- (1) 主は主権者、統治者ゆえに実現
- (2) 富む者も (貧しい者と同様に) 主に平伏す
体は生かしてもたましいを生かせない
体が土に返って行く者 (感謝か恐怖か)
- (3) 神の民の拡大と継承
信仰、奉仕、宣教 (創造、救済、審判)
主の義と行われた主の義の業の次世代への証し

VI. 適用

- (1) 神が私を見捨てたかのように思えるときも変わらず「わが神」
普段以上に、昼夜神に祈る
- (2) 神のご性質と御業を思い起こす (神は不変)
- (3) 自分個人の救い、教会の歴史、聖徒たちの信仰の働きを振り返る
確信、励まし、今から将来への展望が与えられる
- (4) 賛美は主から、賛美から誓いを果たす志と実行力へと結実
- (5) すべて主にあって実現 (私たちが応答、献身するなら、用いてくださる)